

平成 22 年度 旭中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

- 1 心豊かで思いやりのある生徒（豊かな心）
- 2 自ら学び創造力のある生徒（自主的な学習）
- 3 健康でやる気のある生徒（健康な体と気力）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人間尊重の精神を基盤に豊かな心と個性を持ち、自主性・創造性を発揮して、たくましく生きる力を培い、広く世界を見つめながら、進んで社会の発展に貢献できる民主的な人間を育成する。

3 学校経営の方針（中期的視点）

- 心身ともに健康な人間育成のため、「知・徳・体」の教育を調和的に展開する。
- 全教職員が教育に携わる者としての自覚をもと、協力して生徒・保護者・地域社会から信頼される教育の推進に努める。
- 多様な資質や生育暦をもつ生徒の存在を認識し、適正な生徒理解や明確な方針により、健全な社会生活を営むことのできる人間育成に努める。

4 今年度の重点目標（短期的視点）

（学 校 運 営） スローガン： チャレンジ！！（やってみよう・やらせてみよう）
：やってみよう（柔軟な考えと工夫）：やらせてみよう（活躍の場の設定）

（児童生徒指導）

- ・ 規範意識と自尊感情を育てる生徒指導の推進

（健康・体力）

- ・ 自己の体力向上を目指し、主体的に運動に取り組む生徒の育成

（学 習 指 導）

- ・ 基本的な学習態度を育成し、学ぶ楽しさを味わえる授業の工夫

5 自己評価（A は共通評価指標、B は学校独自評価指標）

（評価指標の〔全〕は、全体アンケート実施）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項 目	評価指標	主な具体的な取組	方 向 性	評 価
教 育 全 体 の 状 況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】肯定的評価 80%	学校行事で生徒が意欲的・主体的に活動できる場と時間を計画的に確保する。	A	【達成状況】 ・明るくいきいきとした雰囲気がある、教職員は熱心に指導している、教職員は誠実であるは教職員・保護者・地域住民・生徒で肯定的評価が 80%を超えている。 ・授業と生活のきまりやマナーを守るでは、地域住民以外は 80%を超え昨年を大幅に上回った。 ・きめ細かな指導では、生徒の回答が 80%を超えた。 ・適切に教育課程を実施しているは、教職員・保護者・生徒で 80%を越えた肯定的評価をしている。 【次年度の方針】 ・教育全体の状況は、大きく向上し目標が達成できているが、次年度においても教職員・保護者・地域住民が連携して、定着を図っていく必要がある。 ・授業と生活のきまりやマナーを守るは、生徒自身が課題と自覚しているので、生徒会
	A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】肯定的評価 80%	生徒理解に努め、教師と生徒の人間関係を大切にしながら教育活動にあたる。	A	
	A3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】肯定的評価 80%	5分前行動の徹底を図り、安全とゆとりのある行動が取れるようにさせる。	A	
	A4 分かる授業やきめ細かな指導で学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】肯定的評価 80%	① 授業の初めに明確な課題を提示すると共に、生徒の理解状況を確認しながら、分かる授業を目指す。 ② シラバスを活用することで、1年間の授業の見通しを取り組ませる。	B	

	A5 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている。〔全〕 【数値指標】 肯定的評価 80%	① 生徒が生き生きと生活できるようにするため、各行事のバランスを図る。 ② 授業時間を確保するため授業交換などを積極的に行い、出張などでの自習を減らす。	A 活動を活発にして、生徒自ら改善していくように支援する必要がある。 ・わかりやすい授業、きめ細かな指導については、新学習指導要領を反映した教材研究を進めるとことで、生徒からの信頼を得てきているので、さらに外にも情報を発信していきたい。
学校運営の状況	A6 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、「地域の学校づくり」が進められている。〔全〕 【数値指標】 肯定的評価 80%	家庭訪問や学校公開日の設定、種々により、HPなどを利用して学校の情報を発信・提供する。	A 【達成状況】 ・学校便りや学校公開、HPで情報を発信しているが90%を超えている。 ・学校・家庭・地域・企業等の連携は教職員・保護者・地域住民は80%を超えているが、生徒は75%の肯定的回答であった。
	A7 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った取組が推進されている。〔全〕 【数値指標】 肯定的評価 80%	学校・家庭・地域の連携を図るため、三地区における地区懇談会を実施し、積極的な意見交換を行う。	B ・学習にふさわしい環境については、教職員・保護者・地域住民・生徒全てで80%を越えていた。
	A8 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】 肯定的評価 80%	① 教室や廊下の掲示物を計画的に整備すると共に、できるだけ多くの生徒の作品を掲示する。 ② 学習にふさわしい環境を作るため、清掃活動の充実を図る。	A ・教職員の指導力の向上と指導の工夫と改善には教職員は95%が肯定的回答であったが、保護者においては74%であった。 【次年度の方針】
	A9 学校全体で、教職員一人一人の指導力向上に努めている。〔全〕 【数値指標】 肯定的評価 80%	教科ごとに教材研究会を開いて授業の工夫を図ると共に、授業を参観しあって指導力の向上に努める。	A ・学校からの情報発信が軌道に乗ってきているので、次年度においては、内容の充実を図り、工夫している点なども理解してもらうよう改善する。 ・教室や廊下の掲示物の充実や学校内各所の清掃の仕方が浸透してきている。今後の課題として、生徒自らが環境整備に取り組む姿勢を培っていく必要がある。 ・教師が互いの授業を参観しあって指導力の向上に努める。
教育活動の状況	A10 自ら進んであいさつし、気持ちの良い言葉づかいをしている。〔全〕 【数値指標】 肯定的評価 80%	生徒会、教職員、保護者が協力して、朝のあいさつ運動を実施する。	B 【達成状況】 ・あいさつは全てで80%を超えていた。 ・きちんとした言葉使いや返事は教職員で低い肯定的回答であった。 【次年度の方針】
	A11 毎日朝ごはんを食べ、栄養のバランスを考えた食生活をしている。〔全〕 【数値指標】 肯定的評価 80%	① 「給食だより」や保健・学級活動を通して、食の大切さを自覚させる。 ② 昼休みや部活動などで積極的に運動させる。	B 【達成状況】 ・給食を好き嫌いなく食べるは72%～84%と回答に差が見られた。 ・休み時間や放課後に運動しているは、教職員・保護者・地域住民では高い肯定的回答であったが、生徒は67%と低い回答であった。

本校の特色・課題等	B1 心身の健康を図るため、積極的に部活動に参加している。 【数値指標】 肯定的評価 80%	① 各部の活動内容や取り組み状況を生徒会などで紹介する。 ② 魅力的な部活動にすることによって、加入率を高める。	A	た。 ・部活動に意欲的に参加しているは全てで80%を超えていた。 【次年度の方針】 ・部活動に更に意欲的に参加できるよう指導体制を整え、各部の目標やきまりを明確にし、主体的に取り組ませる。
	A12 授業に意欲的に参加し、基本的な学習態度・技能が身に付いている。〔全〕 【数値指標】 肯定的評価 80%	「学習の約束」を身に付けて、意欲的に授業に取り組ませる。	B	【達成状況】 ・積極的な学習では44%～64%と回答に差が見られた。 ・話を良く聞き、落ちついた学習について教職員は86%と高い評価をしているが保護者や生徒の回答は76%前後であった。しかし、昨年より改善が見られた。 【次年度の方針】 ・進んで挙手し、大きな声で発表できるように「学習の約束」の見直しと徹底を図る。 ・生徒が自ら考え、意見を発表したり、文章にまとめたりできるような授業づくりに努める。
	B2 美しく豊かな心を育成する。 【数値指標】 肯定的評価 80%	毎朝の読書の時間をとおして、読書の楽しさを味わわせると共に、物事を感じとる心を育てる。	A	【達成状況】 ・朝の読書は教職員100%、生徒83%であるのに、保護者・地域住民は低い肯定的回答であった。 【次年度の方針】 ・目標としていた読書に親しむ習慣を身につけさせることは達成することができた。今後は、読んだ本の内容を互いに紹介しあうなど、読書の発展的な活動を取り入れる必要がある。 ・「立春」や「大寒」など、暦を教えることによって季節を感じる心を育てる。

〔総合的な評価〕

- ・教職員・保護者・地域住民・生徒の調査項目において、全ての肯定的回答が昨年度、一昨年度を大きく上回った。
- ・学校全体に活気があり、明るくいいききとしていると見る割合が多かった。生徒たちがあいさつ・運動・部活動を積極的に行っている表れと見ることができる。
- ・目標が達成された項目が多くなったが、昨年は、保護者や地域住民への周知が不十分であったため、変容を理解してもらうことが難しかったが、今年度は改善が見られ肯定的な回答が増加してきた。
- ・あいさつ・返事などは向上したが、TPOに応じた言葉遣いやマナーについては教師において評価が低く、保護者・地域住民・生徒との回答の差が見られた。
- ・教職員の姿勢やわかりやすい授業については、肯定的回答が教職員・生徒と保護者に大きく開きが見られた。
- ・授業で進んで挙手し、大きな声で発表するなど、授業に対する積極性に関する評価が低かった。

6 学校関係者評価

- ・学校全体に雰囲気がよくなってきている。この状態がさらに続くよう更なる努力が必要である。
- ・生徒の意欲ややる気が一人ひとりの生徒から感じ取れる。これは生徒自身が認めれていると感じている表れである。それが、高評価に繋がってきているのではないかな。
- ・肯定的回答の数字が昨年・一昨年に比べ多くの項目で高くなっている。また、市と比較することで実態が見えてきている。しかし、数字を比較することだけにとらわれず、より高い目標を求めることが大切である。
- ・学校・保護者・地域の役割分担が必要である。連携と言いながら、どこが学校、どこが家庭、どこが地域なのか、役割分担を明確にする必要がある。学校より地域・保護者に情報を発信し、互いに補い合うことが必要である。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

- ・ 肯定的回答は昨年・一昨年に比べ高くなった。今後もより高い目標を目指していくことが大切である。
- ・ 「授業において積極性が足りない、発言の声が小さい」については、「授業の約束」をもとに生徒が積極的に発言できる授業作りに努めるなど授業における指導法の研究も必要である。
- ・ 今年度、あいさつ運動を地区内小学校と同一日に実施した効果が学校教育全般に良い影響を与えている。今後の継続的な指導が重要である。
- ・ 学校だより等の利用で、地域や保護者の学校への関心は向上してきた。今後は、内容の更なる充実を図り、学校としての取り組みを十分理解してもらうよう改善する。